西洋の都市計画史

都市計画概論第２回

中井検裕

近代都市計画の始まり

- 産業革命により農村から都市に生産機能が移動
- 農村部から都市部への人口の大量流入
- 都市内の大量公共交通機関が未発達のため、物理的な都市の拡大は制限

→大都市の過密居住

近代都市計画の起源

- 大都市の過密居住に代表される、労働者の住宅・住環境問題に対する対応策
  - F. Engels *The Condition of the Working Class in England* (1844)
    エンゲルス『イギリスにおける労働者階級の状態』岩波文庫

近代都市計画の発展

⌘理想都市

- 都市はこうあるべき（作るべき）との規範論
- 都市計画の思想の形成

相互に影響

⌘現実都市

- 都市を改善していく社会的仕組み
- 都市計画の制度の形成

近代都市計画の発展

- イギリス
  - 産業革命を世界で最初に経験
  - アングロ・サクソン

相互に影響

- ヨーロッパ大陸
  - ラテン＝ギリシャ・ローマ文化の伝統
- アメリカ
  - 産業革命をヨーロッパよりやや遅れて経験

初期の思想（英）：

ロバート・オーエンの「理想工業村」

初期の思想（英）：

カンパニー・タウン

- 大資本家による工場と工場労働者のための計画的工場村建設
  - サルテア（1852）／タイタス・サルト卿
  - ボーンビル（1879）／ジョージ・カドベリー
  - プルマン（1881）／ジョージ・プルマン
  - ポート・サンライト（1886）／ウイリアム・リーバー
  - アースウィック（1905）／ジョゼフ・ラウントリー

初期の思想（英）:

ポート・サンライト（1886）

初期の制度（英）:

条例住宅

- 1842年チャドウィック報告
- 1848年公衆衛生法
  - 排水、上水、舗装、清掃に関する規則
- 1875年公衆衛生法
  - 条例による建築規制
  - 建物単体に対する規制のみならず、新築街路の築造法、幅員、排水、隣棟間隔を定めた開発規制
- 建築条例から住居法と都市計画法へ発展

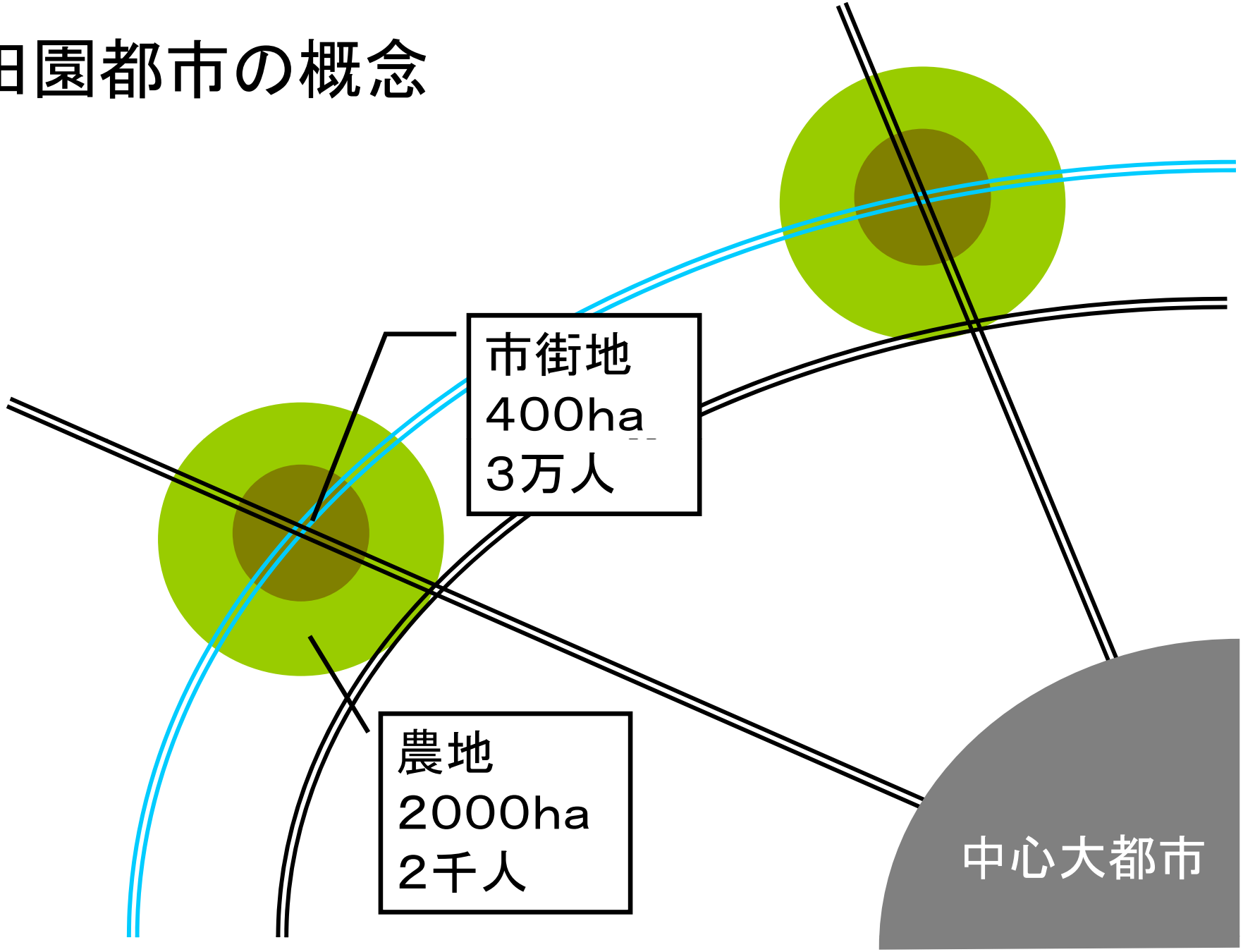
田園都市論

- ⌘エベネザ・ハワード（1850-1921）
- ⌘一部資本家による個別の試みだったカンパニー・タウンの考え方を一般化
- ⌘大都市からの産業と人口の郊外への計画的分散
- ⌘都市環境と自然環境の調和
- ⌘小規模独立新都市の開発とその自立経営

Garden Cities of Tomorrow ―A Peaceful Path to Real Reform (1898)

「明日の田園都市
:真の改革に至る平和的道程」
長素連訳、鹿島出版会SD選書

田園都市の概念



田園都市の開発経営

- 投資家から資金を集め、株式会社を設立
- 株式会社が土地を購入し、田園都市を建設
- 土地・建物を株式会社が所有したまま、利用者に賃貸
- 株式会社は半公営企業として、利用者からの賃料を、道路・公園などの都市基盤建設にあてる

田園都市建設の試み

- 田園都市協会の設立（1899）
- 第一田園都市株式会社の設立（1903）
- ロンドン北方50kmの地点に1547haの土地を買収（レッチワース）
- 中央の745haに市街地を建設、住宅戸数7000戸、工場＋商店
- 現在でもその精神と仕組みが維持
- 第二田園都市（ウエルウイン）の建設（1920）

田園都市の空間計画

- ⌘レッチワースの建設にあたり、ハワードの理念を具体的な空間計画として実現させる必要性
- ⌘レイモンド・アンウインとバリー・パーカー

ハワードの田園都市論
アンウィン＝パーカーの
郊外住宅地設計規範

↓

アメリカ

↓

ヨーロッパ大陸

初期の思想（米）:

公園の計画

- 都市のユートピア思想の表われ
- フレデリック・ロー・オルムステッド
  - 都市の理想主義とジェファーソン流民主主義を、都市公園という物的施設を通して実現しようとする

初期の思想（米）：

シカゴ博覧会

- 新大陸発見400年を記念し、1893年開催
- アメリカにおける最初の大規模開発
  - 公共建築と公共空間の一体的設計
- アメリカの都市計画と都市デザインに大きな影響、またハワードにも影響を与える
- ダニエル・バナム
  - 博覧会場のマスタープランナー
  - 「アメリカ都市計画の父」と呼ばれる

初期の思想（米）:

都市美運動

- バナムを中心とした都市計画思想
  - 軸線や広場といった古典的空間造形
  - シビックセンターなど都市に象徴的な秩序を与える
  - 都市の審美面を強調

初期の制度（米）：

ゾーニング

- 資産価値の下落を懸念した中産階級の期待に応える仕組み
- 地域（ゾーン）ごとに土地利用、密度、建物形態を規制
- １９１６年ニューヨーク市地域制条例
- １９２６年ユークリッド判決により、ゾーニングの合憲性が認められる
- 全米各地に標準的都市計画の方法として普及し、現在に至る

計画コミュニティの開発

- 第一次大戦後の好景気下における計画住宅地開発
- ハワードの田園都市論、アンウイン＝パーカーの住宅地設計規範の影響
- 計画コミュニティの概念
  - クラレンス・ペリーの近隣住区論
- 本格的自動車社会への対応
  - クラレンス・スタインによる歩車分離システム

ラドバーン

- 1928年、ニューヨーク市郊外
- クラレンス・スタインとヘンリー・ライトの計画
- 戦前の郊外住宅地開発の集大成
  - 田園都市
  - 近隣住区
  - 歩車分離
    （ラドバーン・システム）

ラドバーン

ラドバーン

初期の思想（大陸）:

オスマンのパリ改造

初期の思想（大陸）:

線形都市

- ソリア・イ・マータの提案（1882）
- 軌道を中心に幅500mの開発

初期の思想（大陸）:

工業都市

- ⌘トニー・ガルニエの提案（1917）
- ⌘機能分離、秩序を造形を強調
- ⌘近代都市の全体像を提示
- ⌘新技術（コンクリート）の導入

輝く都市

- ル・コルビジェ
- 鉄筋コンクリート建設技術の発展を背景とした高層建築計画
- 大都市内での産業と人口の立体的再編
- 太陽・空間・緑、都市は巨大な公園
- 「人口300万人の現代都市」計画（1922）

Urbanism
(1924)

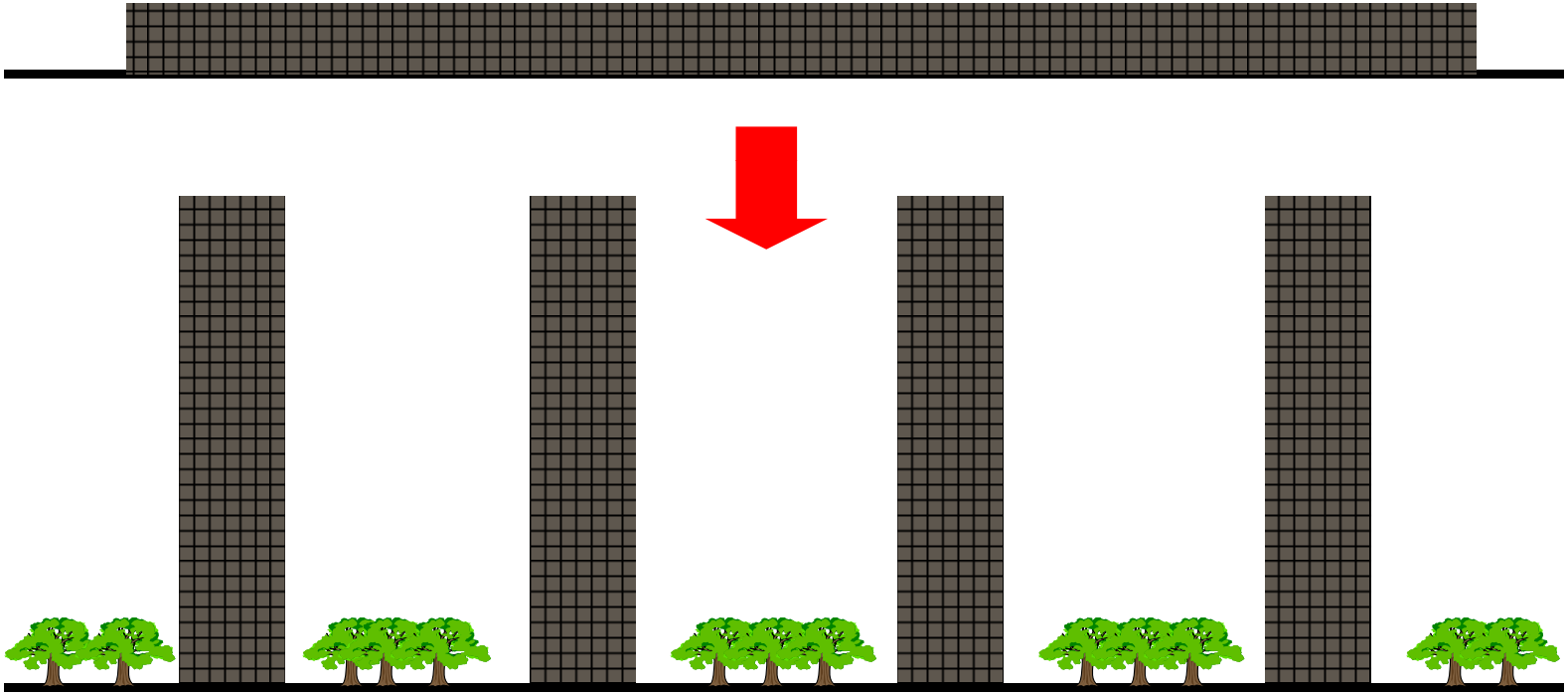
「ユルバニスム」
樋口清訳、鹿島出版会SD選書

The Radiant City
(1933)

「輝く都市」

板倉準三訳、鹿島出版会SD選書

コルビジュの混雑解消の概念



コルビジェの混雑解消の概念

- 大都市中心部の混雑の解消は、より高密度にすることによって達成される
- 2次元では極めて低密度、3次元では極めて高密度
- 大都市内部における都市環境と自然環境（公園）の調和
- 垂直田園都市

コルビジュの輝く都市

イギリス

計画的コミュニティ開発

大ロンドン計画（1944）

- ⌘バーロー委員会報告
- ⌘パトリック・アバクロンビー
- ⌘地域全体の計画
- ⌘大都市郊外の無秩序な拡大を抑止するためのグリーンベルト
- ⌘衛星都市の建設

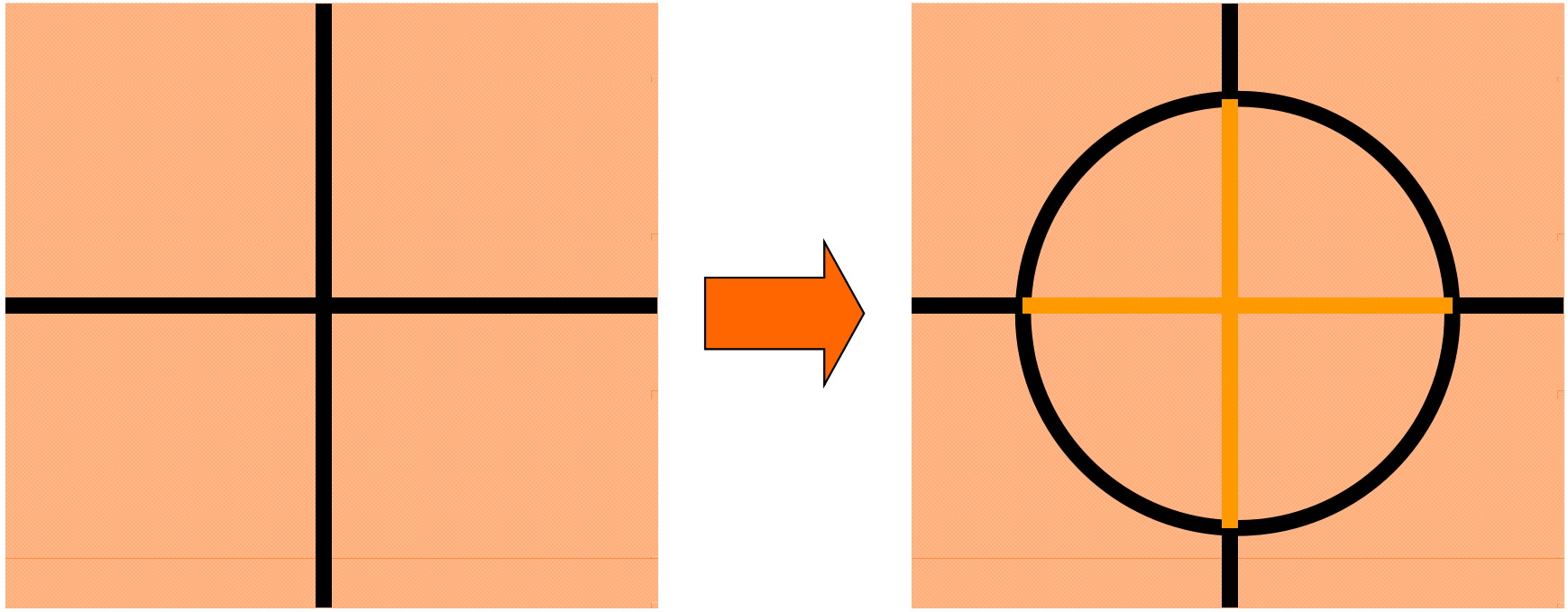
ニュータウンの建設

- 1946年ニュータウン法
- ニュータウン開発公社
  - 国の機関として用地取得、ニュータウン建設、維持・管理を行う
- 総計28のニュータウンがイギリス全土に建設
  - 第1世代（1946－1955）　16
  - 第2世代（1961－1966）　7
  - 第3世代（1967－1971）　5
- 全世界のニュータウン建設のモデルとなる

ニュータウン市街地

戦災復興による中心地計画

- 被災都市の復興計画
- 都市内環状道路の整備



コベントリー復興計画

現代へ

- 郊外開発の行き詰まり
  - 需要の喪失
  - ニュータウンへの幻滅
  - 環境問題の台頭
- 都市の衰退
  - 高成長から安定・低成長へ
  - インナーシティ問題
- 既成市街地をどう再生するか